

4 「三重県地域づくり推進条例」第5条に基づく地域づくり実施状況報告 (平成24年度)について

1 経緯

「三重県地域づくり推進条例」(平成20年三重県条例第32号)(以下「条例」という。)第4条に基づく地域づくりの仕組みとして平成21(2009)年4月から「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」と「美し国おこし・三重」の取組を位置づけています。

「地域づくり実施状況報告書<平成24(2012)年度版>」は、条例第5条の規定による、これらの仕組みに基づく平成24(2012)年度の地域づくりの実施状況について、議会に報告するとともに、これを公表するものです。

2 条例第4条に基づく仕組みについて

(1) 「県と市町が連携・協働し、地域づくりの基盤を整備する仕組み」

地域づくりの推進に取り組むにあたっては、県とこれまでに各地域において地域づくりを進めている市町との連携を一層強化することが重要です。

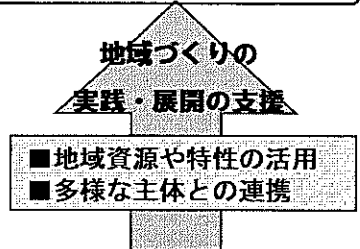
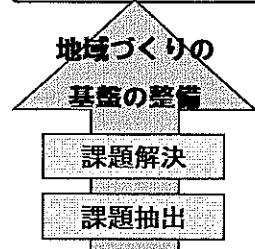
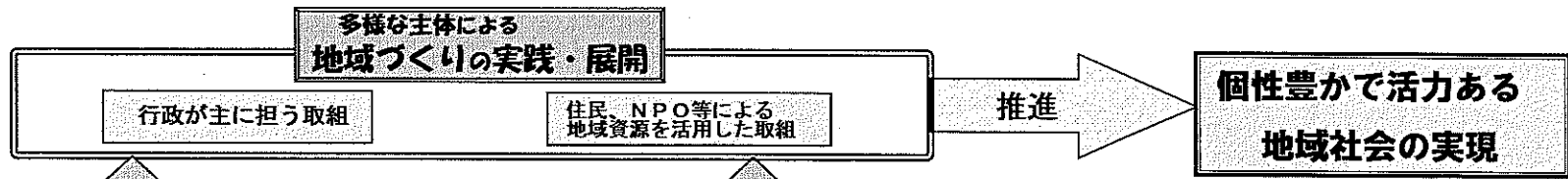
そのため、県と市町の共管組織として設置した「**県と市町の地域づくり連携・協働協議会**」を条例に基づく仕組みとして位置づけ、連携・協働して地域づくりの基盤の整備に向けた取組を進めています。

(2) 「多様な主体が参画し、地域づくりの実践・展開を支援する仕組み」

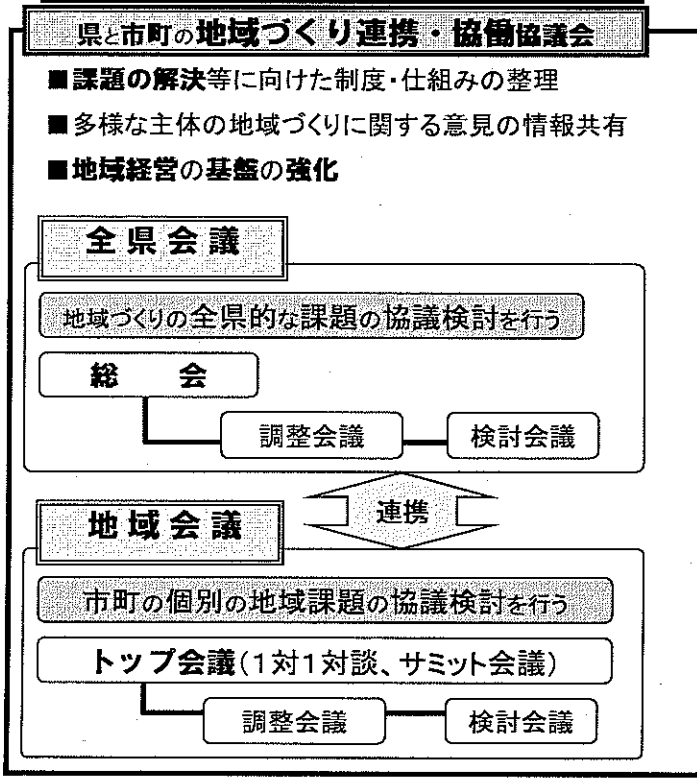
多様な主体による地域づくりが推進されるためには、住民の自発的な活動を活性化するとともに、地域の資源や特性など、多面的な価値の磨き上げを行っていくことが重要です。

そのため、県と多様な主体が連携して活動する「**美し国おこし・三重**」の取組を条例に基づく仕組みとして位置づけ、地域づくりの実践・展開を支援することにより、自立・持続可能で元気な地域づくりをめざした取組を進めています。

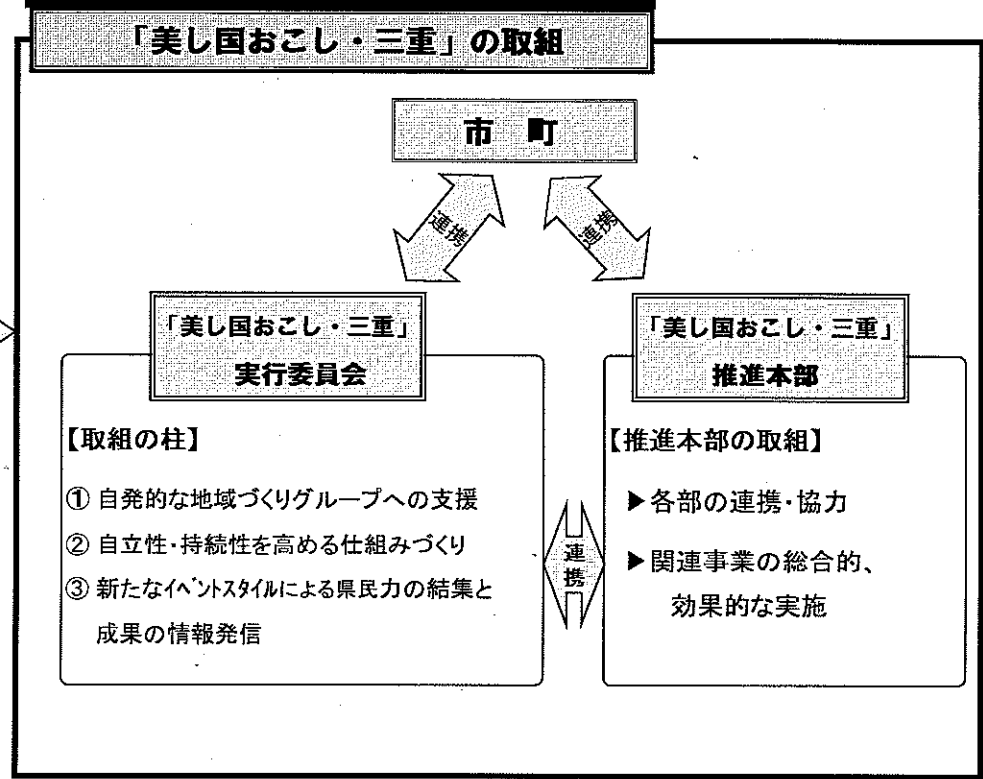
「県と市町の連携・協働」と「美し国おこし・三重」の仕組み（平成24年度の三重県地域づくり推進条例に基づく仕組み）



県と市町が連携・協働し、地域づくりの基盤を整備する仕組み



多様な主体が参画し、地域づくりの実践・展開を支援する仕組み



連携

連携

3 「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」の取組状況

(1) 開催状況

① 全県会議

全県会議は、全県的な政策課題等を協議・検討するために設置しています。

名 称	役割と構成	開催状況等
総会	<ul style="list-style-type: none"> ◆全県的な課題について意見交換 ◆連携・協働、役割分担のあり方の対応策の承認 ◆検討会議等での検討指示 【構成】市町長、市長会会長、町村会会長、知事、副知事、危機管理統括監、各部署局長等、県民センター所長	1回 ◆活動報告 ◆協議事項 ・平成25年度協議会の運営について ◆意見交換 ・平成23年度意見交換後の対応について ・式年遷宮に向けた県と市町が連携した情報発信について（三重県のブランド力アップ～三重の魅力を大きく発信～） ◆県からの報告事項
調整会議	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域づくりに関する各種協議 ◆検討会議の設置決定、協議内容に係る意見調整 【構成】市町企画担当課長、県各部署主管課長、県民センター担当室長	2回 ◆活動報告 ◆検討会議の設置・メンバー募集 ◆平成25年度の（全県会議）検討会議の取組について ◆県からの報告事項
検討会議	<ul style="list-style-type: none"> ◆全県的な課題に関する取組 【構成】市町関係課、県関係課等	◆暴力団排除に関する連携・協力のあり方：3回

【開催回数合計】6回

② 地域会議

地域会議は、県民センターを単位として市町の地域づくりに関する課題等を協議・検討するために設置しています。

なお、平成23（2011）年度に協議会の運営等について市町と共に検討を行った結果、平成24（2012）年度から「知事と市町長との1対1対談」をトップ会議の一つに位置づけるなどの見直しを行いました。

名 称	役割と構成
トップ会議	（1対1対談形式 “1対1対談”） ◆市町固有の具体的課題を議論 ◆課題等の共通認識の醸成と解決を導くための協議 （地域別集団形式 “サミット会議”） ◆地域共通の課題を議論 ◆地域課題の共通認識の醸成と地域における連携・協働に向けた協議 【構成】関係市町長、知事、地域連携部長、南部地域活性化局長、戦略企画部長、総務部長、関係県民センター所長

名 称	役割と構成
調整会議	◆県民センター単位等での地域づくりに関する各種協議 ◆検討会議の設置決定、協議内容に係る意見調整 【構成】市町関係部課長、県民センター所長、県民センター担当室長
検討会議	◆桑名、四日市、鈴鹿、津、松阪、伊勢、伊賀、尾鷲、熊野の9県民センターにおける地域課題への取組 【構成】関係市町関係課、関係県民センター担当室、関係県地域機関等

(地域会議開催状況)

県民 センター	トップ会議		調整 会議	検討会議
	1対1 対談	サミット 会議		
桑 名	4回	1回	3回	◆地域資源の魅力を発信する効果的・有効的な取組：3回 ◆小水力発電アイデアコンテスト：4回 ◆スマートエネルギー構想：4回
四日市	3回	1回	3回	◆三泗地域の防災体制の強化：6回 ◆トイレマップ：1回
鈴 鹿	2回	1回※	3回	◆まちかど博物館を活かしたまちづくり：11回 ◆鈴鹿亀山地域における情報発信と物産振興：10回 ◆救急医療機関の適正利用に関する啓発活動：2回
津	1回	1回※	3回	◆森林セラピー基地等を活かした地域づくり：2回 ◆歴史街道等を活かした地域づくり：3回
松 阪	4回	1回	5回	◆定住自立圏構想の推進：0回 ◆松阪地域全体で取り組むべき防災対策とその連携：30回
伊 勢	7回	1回	6回	◆人口減少対策：3回 ◆南勢志摩地域の防災対策：3回
伊 賀	2回	1回	4回	◆定住自立圏構想：7回 ◆伊賀地域における防災・減災力向上：4回
尾 鷲	2回	1回※	2回	◆地域における防災対策：4回 ◆地域資源を活かしたまちづくり：6回
熊 野	3回	1回※	2回	◆防災に関する人材の育成及び活用：4回 ◆地域の実情に応じた公共交通体系のあり方：4回
開 催 回数計	28回	7回	31回	111回

※鈴鹿・津、尾鷲・熊野は共同開催のため開催回数としては、1回としてカウント。

【開催回数合計】177回

(トップ会議の開催概要)

<1対1対談>

対等なパートナーシップの関係にある県と市町が、これまで全国的に行われてきた提言・要望活動のあり方を変え、市町の具体的な課題について、知事と市町長がオープンな場で議論し、課題に対して共通した意識を醸成するとともに、課題の解決に向けて1歩でも前に進めることを目的として開催しました。

開催日	市 町	対談項目
平成 24 年 6 月 22 日	大台町	<ol style="list-style-type: none"> 1 治山・砂防施設及び宮川の堆積土砂の撤去について(宮川上流域) 2 土砂置き場の確保と方策の検討 3 宮川の水質改善に向けて(具体的な実施プログラムの策定と抜本的取り組みを) 4 過疎地対策と集落対策について
7 月 7 日	尾鷲市	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域ワンセグによる防災専用放送の構築について 2 産業振興について <ol style="list-style-type: none"> ① ものづくり(尾鷲の農林水産物を使用した商品開発) ② 流通・販売 ③ 木質バイオマスエネルギーの利用 ④ 海洋深層水活用型陸上養殖事業の企業誘致 ⑤ 観光交流事業 ⑥ メタンハイドレートについての取組方策
7 月 7 日	紀北町	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災対策・災害復旧対策について <ol style="list-style-type: none"> ① 鍛冶屋又山腹崩壊について ② 防災・減災対策について ③ 「銚子川」等の堆積土砂問題・横山林道の横山橋の橋台部分、林道部分の崩落について 2 交流人口増加への取組について(「にぎわい」のまちづくり) <ol style="list-style-type: none"> ① スポーツ合宿等の充実 ② 銚子川流域の魅力アップ ③ 三浦休憩施設 3 「熊野古道」について 4 「第 24 回みどりの愛護のつどい」について
7 月 10 日	桑名市	<ol style="list-style-type: none"> 1 桑部播磨線の整備について 2 スマートエネルギービジョンの策定について 3 去年の 1 対 1 対談のその後について <ul style="list-style-type: none"> ・広域防災拠点(北勢地域)の建設場所について
7 月 15 日	亀山市	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災力の強化について 2 効果的な道路ネットワークの形成について 3 特色ある産業の振興について 4 子育て支援について

開催日	市 町	対談項目
7月15日	伊賀市	1 観光資源の発信について ① 国際的に知名度のある伊賀流忍者を活用したインバウンド（外国人誘客）への施策について ② 伊賀ブランドを活用した観光振興について ③ 「世界に誇る三重県観光モデル構築事業」における県と地域との協働について ④ 伊勢神宮式年遷宮を契機とした観光の広域連携について ⑤ ニューツーリズムの推進について 2 広域的な道路・交通ネットワークについて ① 名神名阪連絡道路について ② JR関西本線の電化促進について 3 スポーツの振興について ① IFCくノ一の支援について ② 国体等に向けての施設改修について
7月25日	紀宝町	1 防災対策（地震・津波・洪水・孤立対策）について 2 熊野川河口大橋の早期工事着手について 3 七里御浜・井田海岸浸食対策事業について 4 射撃場施設の要望について（スポーツコミッション）
7月25日	御浜町	1 防災施設（避難タワー等）の建設に対する情報の提供及び指導等、支援について 2 地域自主防災組織への育成・強化への人的支援について 3 県民センター内における防災部門での専門職の配置について 4 海岸及び河川堤防の強化による津波被害の減災について 5 柑橘産業の振興について
7月25日	熊野市	産業振興および防災対策の推進について 1 伊勢神宮式年遷宮を生かした集客等の取組の一層の推進について 2 防災対策の推進について 3 「森林づくり税」の導入について 4 特産品の振興について 5 大規模な屋内運動施設（総合体育館）建設への支援について
7月26日	伊勢市	1 伊勢市の災害対策について 2 伊勢市内の交通対策について 3 伊勢市の主な取り組みについて ① ポスト遷宮対策について ② エネルギーの地産地消について 4 国民体育大会の開催における競技会場の誘致について
7月26日	鳥羽市	1 第62回神宮式年遷宮における誘客連携及び遷宮後を見据えた鳥羽港佐田浜地区のみなとまちづくりについて 2 離島振興法改正への対応及び離島架橋の早期実現について 3 県医療ネットワークの活用による企業誘致の促進について 4 森林の適正な整備に対する支援の拡充と伐採した木材の活用について 5 市立診療所運営費にかかる補助制度の創設について

開催日	市 町	対談項目
7月26日	松阪市	1 一次医療の充実について 2 三重県松阪食肉公社の今後のあり方について 3 特別支援教育の充実について 4 「就学を支援する外国人児童生徒受入促進事業補助金」の県補助金額分の確保について 5 放課後子ども教室推進事業補助金県補助金額分の確保について 6 放課後児童クラブ活動に対する三重県支援策について 7 合併浄化槽県補助金（県浄化槽設置促進事業補助金）の改正について
8月2日	津市	1 三重武道館の移転整備について 2 津波発生時の唯一の避難路となる香良洲橋（県道香良洲公園島貫線）の架け替えについて
8月10日	いなべ市	1 いなべの里の蕎麦の取組について
8月28日	明和町	1 伝統文化産業の活性化について 2 齋宮跡東部整備事業の推進について 3 笹笛川の浚渫工事等について 4 大仏山公園管理用道路の整備について
8月28日	多気町	1 新エネルギー（バイオマス発電）について 2 企業誘致支援について 3 獣害対策支援について 4 高校生食の交流フェアみえ（案）について
8月30日	四日市市	1 市立四日市病院の北勢地域の中核病院としての認識と支援について 2 公共交通施策について ① 近鉄内部・八王子線について ② JR四日市駅のバリアフリー化について 3 中核市への移行について 4 国体を見据えたスポーツ施設整備について 5 治水対策について
8月30日	川越町	1 津波災害時における高速道路（橋脚設置）の利用促進について 2 災害時における広域道路の機能確保について 3 河川の小段上部のコンクリート化について
8月30日	朝日町	1 あさひ園の課題について 2 児童相談所との連携について 3 教育関係行政経費への支援について 4 防災対策における河川の強化について
9月3日	志摩市	1 防災対策について 2 里海ツーリズムの確立と志摩里海学舎構築について 3 的矢湾の環境改善への取組状況について

開催日	市 町	対談項目
9月3日	度会町	1 茶業の振興～リーフ茶の復活対策（緑茶の消費減退への対応）～ 2 再生可能エネルギーの積極的な推進 3 県道伊勢大宮線葛原地内の冠水対策等について 4 南部地域活性化プログラムの見直し
9月3日	玉城町	1 若い働く世代の交流について 2 親の子育て力向上支援について 3 外城田川の浚渫工事について
9月6日	南伊勢町	1 産業振興対策について 2 若者定住対策について 3 高齢者対策について 4 国道260号線の整備について
9月6日	大紀町	1 幸福度調査結果について 2 防災対策について 3 獣害対策について
10月12日	鈴鹿市	多文化共生社会の実現に向けて 1 鈴鹿市の現状と課題について 2 第三国定住難民受入に関する取組について 3 多文化共生に係る子どもたちの教育について
10月16日	東員町	1 エコ・コミュニティ事業の推進について
10月16日	木曾岬町	1 県境地における一体的な道路網整備について 2 木曾岬干拓地の土地利用について 3 災害時における避難者対策について
10月20日	名張市	1 地域資源を生かした農林業の多面的展開 2 市民（県民）主権のまちづくり

<サミット会議>

地域共通の課題について、知事と関係市町長がオープンな場で議論し、課題に対して共通した意識を醸成するとともに、地域における連携・協働に向けた協議を行い、住民サービスの向上や県と市町との連携の強化を図ることを目的として開催しました。

開催日	地 域	地域で選定する地域共通の課題
平成24年 6月26日	伊賀	1 大規模災害発生時における災害対策体制の強化について 2 広域的な観光戦略と地域ブランドの創出について
7月10日	松阪	1 松阪地域における環境問題の諸課題について 2 松阪地域における防災問題の諸課題について
8月2日	四日市	1 災害時における医療・介護について 2 地域における諸課題について

開催日	地域	地域で選定する地域共通の課題
8月7日	東紀州	1 今後発生すると予測される東海・東南海・南海地震や、台風・大雨による大規模な風水害に備えて ～津波対策や風水害対策について～ 2 高速道路の延伸に伴う、自然、歴史、文化、食などの多様な地域資源を活用した今後の観光、文化、産業の振興およびまちづくりについて
11月17日	鈴鹿・亀山、津	1 地域医療について 2 広域連携における観光戦略について 3 子育て支援について
平成25年 1月14日	桑名	1 観光と地域資源の売り出し
1月15日	伊勢志摩	1 安全・安心のための広域連携体制の構築について 2 遷宮に向けてのキャンペーンと遷宮後の地域振興について

(調整会議の開催概要)

各県民センターにおいて、検討会議の設置やサミット会議の地域で選定する地域共通の課題等について協議・調整を行うとともに、県・市町間で「美し国おこし・三重」の取組状況や地域づくりに関する地域課題等についての情報共有を行いました。

(2) 検討会議の主な成果

全県会議および地域会議の各検討会議の主な取組成果は、以下のとおりです。

①全県会議

検討会議テーマ	主な取組成果
①暴力団排除に関する連携・協力のあり方 検討会議	県および各市町と「暴力団排除対策の広報啓発活動」や「飲食店事業者等からの暴力団排除対策」、「露天商からの暴力団排除対策」などについて情報共有を図るとともに、積極的な暴力団排除対策に向けた取組を推進することができました。

②地域会議

センター	検討会議テーマ	主な取組成果
桑名	①地域資源の魅力を発信する効果的・有効的な取組について	全国のSNSの導入事例を参考に幅広く検討した結果、フェイスブックの活用が情報発信力の強化に有効であるとの共通認識を持つことができました。
	②小水力発電アイデアコンテストについて	コンテストの開催により、一部自治会では住民が小水力発電装置の制作に取り組むなど自然エネルギーの利活用に関する住民意識の向上につながりました。
	③スマートエネルギー構想について	桑員地域の市町間において、桑名市が策定する「スマートエネルギー構想」に関する情報共有や意見交換を行ったことにより、再生可能エネルギーに対する共通認識を深めることができました。

四日市	①三泗地域の防災体制の強化について	風水害等に影響のある気象をはじめとした各種勉強会を開催し、各自治体防災担当のスキルアップを図ることができました。
	②トイレマップについて	多機能トイレ情報の発信による地域のイメージアップ事業がスムーズに展開できるよう、周知活動やステッカーの貼付依頼、対象施設への協力要請などの支援を行うことができました。
鈴鹿	①まちかど博物館を活かしたまちづくりについて	鈴鹿亀山地域のまちかど博物館関係者同士の交流やお互いを高め合う機会を創出するために、他地域（桑名・松阪）のまちかど博物館を見学する合同見学バスツアーの開催などの活動を支援することができました。
	②鈴鹿亀山地域における情報発信と物産振興について	亀山市のシティプロモーション事業におけるWEB動画を活用した効果的な情報発信や、光太夫ネットワークの活動におけるイベントを通じた啓発活動の支援を行うことができました。
	③救急医療機関の適正利用に関する啓発活動について	救急医療機関の適正利用に係る啓発活動の具体的な方法を検討し、作成した啓発用DVDをさまざまな救急医療イベントで活用することにより、効果的な啓発を行うことができました。
津	①森林セラピー基地等を活かした地域づくりについて	美杉地域の地域づくり協議会と連携して、森林セラピー基地等を活用した地域づくりや田舎暮らしアドバイザーを活用した空き家情報バンクの活性化等に取り組むことができました。
	②歴史街道等を活かした地域づくりについて	ボランティアガイド団体の研修会や日常の相談活動、津市の歴史健康ウォーキング事業等を通じて、県と市が協働してボランティアガイド団体間の連携活動を支援することができました。
松阪	①定住自立圏構想の推進について	定住自立圏形成協定の締結や定住自立圏共生ビジョンの策定など具体的な取組の進展を図ることはできませんでした。
	②松阪地域全体で取り組むべき防災対策とその連携について	県と市町、関係機関がそれぞれ災害時の課題を整理することによって、地域の防災ネットワークの強化や連携、課題解決に向けた意識の醸成を図ることができました。
伊勢	①人口減少対策について	参加申し込みから交流事業の開催に至るまで、鳥羽市と南伊勢町が地元男性への事前指導や参加女性へのフォローアップの面において今まで以上に連携して事業に取り組んだ結果、鳥羽市の事業で4組、南伊勢町の事業で3組のカップルが成立しました。

	②南勢志摩地域の防災対策について	災害時の情報収集要員の具体的な運用について、管内市町と派遣基準や派遣時の業務等の認識を共有することができました。
伊 賀	①定住自立圏構想について	名張市、伊賀市が定住自立圏構想に基づく圏域を形成する上での取組項目や財政的メリット、事務手続きなどを両市において共有することができました。
	②伊賀地域における防災・減災力向上について	洪水・土砂災害警戒ハザードマップの作成や避難所案内標識の設置による地域住民の迅速な避難行動のための基盤づくりや県広域防災拠点（伊賀拠点）の具体的な運営体制を整理するなど防災・減災力の向上に資する取組が進展しました。
尾 鷲	①地域における防災対策について	住民の防災への機運が高まっている中で、地域における避難訓練等について検討した結果、住民主体の避難訓練等が実施されるなど、災害時における避難の重要性について住民と行政で共有することができました。
	②地域資源を活かしたまちづくりについて	紀勢自動車道概成にあわせて、まちなかへ観光客を引き込む方策として、モニターツアーなどの具体的な誘客事業計画を作成できました。
熊 野	①防災に関する人材の育成及び活用について	地域の実情に応じた研修会を実施した結果、各市町における防災教育に関する取組をより促進させることができました。
	②地域の実情に応じた公共交通体系のあり方の検討について	アンケート調査の検証や先進地事例調査の結果などをふまえて地域の実情に応じた検討を行った結果、次年度には熊野市内に2種類のバスシステムが構築されるなど一定の成果が得られました。

4 「美し国おこし・三重」の取組状況

「美し国おこし・三重」は、地域のさまざまな主体の参画を得て設立した実行委員会が、特色ある地域資源を生かして取り組む地域づくりを基本に、多彩な催しを展開することにより、地域の魅力や価値を向上させ、発信するとともに、集客交流の拡大を図り、自立・持続可能で元気な地域づくりへとつなげていく取組です。

平成24(2012)年度は、「地域での美し国おこし」の取組を引き続き進めるとともに、「人と地域の絆づくり」を理念とした「地域の誇り・地域の夢」と、「人と人の絆づくり」を理念とした「つむぐ想い・つながる心」の2つのテーマにより、「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」に取り組みました。

(1) 全体概要



(2)「地域での美し国おこし」(地域づくりの担い手の育成と支援)の取組状況

項 目	取 組 内 容	取組の成果など
①座談会等の開催	①座談会、説明会等を市町と調整の上、715回、取組の開始以降、2,527回開催しました。	パートナーグループ登録数が前年度を大幅に上回るなど、地域の皆さんが地域づくりに自発的に取り組む機運も向上しつつあります。
②パートナーグループの登録	②「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に沿って、自発的に地域をよりよくしていこうとする活動を行うパートナーグループとして、175のグループに登録いただき、取組の開始以降513グループとなりました。	また、パートナーグループ「CORORO」のイベント“Fata festival”や「熊野宮川を守る会」の“ソーシャルレジャープロジェクト”、「ISOMON [®] 」の“丹敷戸 ^{にしきと} 畔 ^べ の謎解明プロジェクト”
③拡大座談会	③市町単位や実行委員会事務局地域事務所単位など、地域や活動分野を越えた連携・交流のきっかけづくりや「美し国おこし・三重」の取組をアピールするための拡大座談会を、27回開催し、延べ1,788人に参加いただきました。	など、自発的に複数のグループが連携した取組事例も出てきました。
④人材育成研修	④「グループを安定的に運営したい」、「活動資金を安定的に確保したい」、「ステップアップにつながる投資資金を調達したい」という皆さんを対象に、鈴鹿、尾鷲、伊賀の3会場でマネジメント研修を実施し、合計96人の参加をいただきました。	
⑤専門家派遣	⑤パートナーグループの活動を活性化し、課題の解決を支援するため、パートナーグループの要請に基づき、プロデューサーと協議の上で、専門家派遣を25件、延べ65回(日)実施しました。	

<p>⑥広報・誘客支援</p>	<p>⑥「(4) 情報発信の取組状況」で説明</p>	
<p>⑦ネットワーク化支援</p> <p>○成果発表・交流会</p> <p>○「美し国おこし・三重」サポーターズクラブ</p>	<p>⑦これまでの「美し国おこし・三重」の取組や地域づくりを実践しているグループの活動の成果を発表し、相互の交流・連携を促進するとともに、県内外へ情報発信することを目的に、「ワクワク！うまし発見フェスタ～みえの地域づくり大集合～（平成 24 年度「美し国おこし・三重」成果発表・交流会）」を開催しました。</p> <p>また、「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に賛同し、取組のPRや実際の活動を応援していただけるサポーターズクラブに、平成 24（2012）年度は団体 34 件、個人 26 人の登録をいただき、開設以降総計で団体 103 件、個人 176 人となりました。</p>	
<p>⑧財政的支援</p>	<p>⑧プロジェクトを企画し、認定を受けたパートナーグループに対し、市町の考え方に沿って、活動の自立・持続のために必要な初期投資の経費を、1 回に限り市町とともに支援することとし、5 件の支援を行いました。</p>	

(3) 「テーマに基づき全県的に取り組む美し国おこし」の取組状況

項 目	取 組 内 容	取組の成果など
<p>テーマプロジェクトの取組</p>	<p>平成 22 (2010) 年度から平成 26 (2014) 年度までの 5 年間にわたるテーマプロジェクトの 3 年目として、「人と地域の絆づくり」を理念に「地域の誇り・地域の夢」をテーマとする次のプロジェクトに取り組みました。</p> <p>○物語おこしプロジェクト</p> <p>また、「人と人の絆づくり」を理念に「つむぐ想い・つながる心」をテーマとする次のプロジェクトに取り組みました。</p> <p>○人と人の絆の場づくりプロジェクト</p> <p>○人と人の絆の場づくり実践プロジェクト</p>	<p>テーマプロジェクトに取り組むことで、パートナーグループ活動の活発化や連携、新たなプロジェクトへのきっかけづくりなど、「美し国おこし・三重」の取組が広がりました。</p>

(4) 情報発信の取組状況

項 目	取 組 内 容	取組の成果など
<p>①「美し国おこし・三重」情報誌「あむあむ」等の発行</p>	<p>①県内各地のパートナーグループの活動や「美し国おこし・三重」実行委員会が主催する拡大座談会等の事業をわかりやすく紹介し、地域づくり関係者や関心のある方に本取組を周知するとともに、県民の皆さんの参加・参画を促進するため、従来の「あむあむ」の判型及びデザインを一新し、発行・配布しました。また、本取組を県民の皆さんに幅広く情報発信し、周知を図るとともに、地域づくり活動への参加・参画いただくためのきっかけとなるようパートナーグループの「人」に焦点をあてて紹介する小冊子「きずなストーリーⅣ」を作成し、生活情報誌等へ綴じ込み・配布を行いました。</p>	<p>パートナーグループへのアンケートでは、本取組を知ったきっかけとして、「県・市町の広報紙」が9.8%、「実行委員会広報紙」が9.2%となっています。</p> <p>同アンケートでは、「美し国おこし・三重」の広報支援については、81.1%のパートナーグループから、「満足」、「概ね満足」との回答をいただいています。</p> <p>また、平成24年度に実施した「e-モニター」によるアンケート結果では、「美し国おこし・三重」を「よく知っている」と回答した人は5.5%、「少し知っている」と回答した人は41.8%となっており、今後もさまざまな媒体を活用した広報が必要と考えられます。</p>
<p>②マスコットキャラクターの活用</p>	<p>②実行委員会で作成するパンフレットやチラシ、ホームページ等のWEBツール、電車やバスへの交通広告、名刺台紙などの広報ツール、啓発グッズにおいて、マスコットキャラクター「う～まちゃん」を活用しました。さらに、県民の皆さんに本取組に親しみを持ってもらい、参加・参画していただけるように、「う～まちゃん」の着ぐるみを活用した広報活動を各種イベント等で実施するとともに、パートナーグループや企業・団体等が主催するイベント等に着ぐるみを貸し出し、併せ</p>	

<p>③「美し国おこし・三重」ホームページ・フェイスブックによる情報発信</p>	<p>て本取組のPRを依頼することで、一層の周知を図りました。</p> <p>③ホームページでは、拡大座談会、テーマプロジェクト等の「美し国おこし・三重」実行委員会主催による行事の告知や開催結果のほか、個々のパートナーグループのイベント情報や、情報誌「あむあむ」を掲載するなど、本取組の最新情報を発信しました。また、新たにフェイスブック・ページを開設（平成24（2012）年7月）し、ホームページと連動した情報を掲載することで、幅広い層への情報発信を行いました。</p>	
--	---	--

(5) 目標と検証・評価の状況

項 目	取 組 内 容	取組の成果など
<p>目標の設定と評価</p>	<p>第三者の視点を加えて検証・評価する評価委員会において、検証・評価を行いました。</p> <p>平成24(2012)年度の目標値は次のとおりです。</p> <p>【全体指標の目標値】</p> <p>①集客・交流者数 (準備期間)</p> <p>②ネットワーク構築数 600グループ</p> <p>③地域への愛着度(e-モニター) 82%以上</p> <p>【個別の取組指標の目標値】</p> <p>①自発的な地域づくりグループへの支援</p> <p>a パートナーグループとして登録されたグループ数 200グループ</p> <p>b パートナーグループの活動充実・満足度(パートナーグループへのアンケート) 70%以上</p> <p>②自立性・持続性を高めるしくみづくり 5件</p> <p>③新たなイベントスタイルによる地域力の結集と成果の情報発信</p> <p>a 県民力拡大プロジェクト参加者数(再掲) (準備期間)</p> <p>b 三重県が実施する「e-モニター」による「地域の活動などに参画している住民の割合」 35%</p> <p>④その他の個別の取組指標と目標の設定</p> <p>座談会等開催数 330回</p>	<p>【実績値】</p> <p>① (準備期間)</p> <p>② 1,067グループ</p> <p>③ 78.3%</p> <p>①</p> <p>a 175グループ</p> <p>b 70.9%</p> <p>② 5件</p> <p>③</p> <p>a (準備期間)</p> <p>b 33.8%</p> <p>④ 715回</p>

(6) 協賛・協力の状況

項目	取組内容	取組の成果など
①シンボルマーク等を使った広報協力	<p>①24の企業や団体等に、パンフレットやチラシ、名刺等でのシンボルマークやマスコットキャラクター「う～まちゃん」を活用した取組の広報を行っていただきました。また、県が包括協定を結ぶ(株)セブン-イレブン・ジャパンと連携し、三重の食材を使用した商品開発と併せて、商品PR用ポスター、チラシ及び各商品のパッケージに、「美し国おこし・三重」マスコットキャラクター「う～まちゃん」を掲載いただき、本取組をPRしていただきました。</p>	<p>シンボルマークやマスコットキャラクター「う～まちゃん」等を使った広報での協力は、年々増加しています。</p> <p>「美し国おこし・三重」の取組の趣旨に賛同いただいたアサヒビール(株)様より金銭的な協賛をいただき、テーマプロジェクトパンフレットを作成しました。</p> <p>一方で、広報以外の協賛・協力をさらに増やしていくことが課題です。</p>
②企業や団体からの協賛	<p>②熊野地域の地元企業(紀伊自動車学校、^{リゾートくまのくらぶ}里創人熊野倶楽部等)及び複数のパートナーグループ等が連携し、平成23(2011)年9月の台風で被害を受けた熊野宮川や多くの流木やゴミが打ち上げられた七里御浜海岸での清掃活動や花壇整備などの社会貢献活動と熊野古道ウォーキング・まちあるきなどのレジャーを組み合わせたソーシャルレジャーを実施しました。また、企業や団体等から広く協賛を募集するにあたり、「『美し国おこし・三重』協賛取扱要領」等により、協賛・協力を進めました。</p>	

(7) 県庁内連携、市町連携の状況

項 目	取 組 内 容	取組の成果など
<p>【県庁内連携】</p> <p>①「美し国おこし・三重」推進本部員会議</p> <p>②「美し国おこし・三重」推進本部幹事会</p> <p>③「美し国おこし・三重」地域支援本部会議</p>	<p>①会議を2回開催し、取組状況や各部局との連携および取組の推進、テーマプロジェクト、県民力拡大プロジェクト企画案などについて、説明・協議を行いました。</p> <p>②幹事会を3回開催し、取組状況や各部局等との連携事業、テーマプロジェクトの進め方、県民力拡大プロジェクト企画案などについて、説明・協議を行いました。</p> <p>③県民センターにおいて延べ41回開催し、座談会の開催やパートナーグループの登録状況、各事務所間連携等について、説明・協議を行いました。</p>	<p>本取組の現状や実施計画の説明・協議を行うことで、各部局間、各地域事務所間で共通認識をもつことができました。</p> <p>地域支援本部員会議では、実行委員会事務局地域事務所と関連する地域機関との連携を図ることができました。</p>
<p>【市町連携】</p> <p>①市町訪問</p> <p>②その他</p>	<p>①日々の業務の中で、地域事務所職員等が市町職員と意見交換を行い、連携を深めています。</p> <p>②市長会や町村会での説明や「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」等で状況報告等を行い、情報の共有化を図りました。</p>	<p>市町の首長から担当者まで、広く取組の理解を求め、連携して取り組んだ結果、全市町で座談会が開催され、パートナーグループ登録数も飛躍的に増加するなど、「地域での美し国おこし」の取組を一層進展させることができました。</p>

(8) 評価委員会意見

評価委員会は、「美し国おこし・三重」実行委員会が行う取組について、第三者の視点から中立的な検証・評価を行うために設置したものです。

平成 25 (2013) 年 2 月 25 日 (月) に第 9 回会議、6 月 3 日 (月) に第 10 回会議を開催し、平成 24 (2012) 年度の取組に関していただいた評価委員長報告および意見、それに対する考え方は、次のとおりです。

① 平成 25 (2013) 年 3 月 12 日付け、評価委員会評価委員長報告

○ 平成 24 年度「美し国おこし・三重」の検証、評価について

「美し国おこし・三重」の取組も約 4 年間が経過し、自発的に複数のグループ同士が連携した取組が実施されたり、座談会での話し合いを契機として地域資源を活用した商品開発が行われるなど、成果も表れてきており、また、平成 24 年度のパートナーグループ登録数は前年度実績を大幅に超えるなど、地域の皆さんが地域づくりに自発的に取り組む機運も向上してきているものと思われまます。

しかし、この取組があと 2 年であるということをお案すると、この取組が終了した後も自立・持続可能で元気な地域づくりが各地で続けられるよう、県内の中間支援組織・機能を担うグループ・団体や地域のリーダー等との連携を図るとともに、県の関係部局との横断的な連携を一層密にし、市町の取組、思いを無視することなく、市町域を超えた広域的なグループ同士のネットワークづくりや情報発信の支援を、地域の実情に応じた形で一層進めていくことが大切です。

さらに、この取組が終了した後、地域に何を残すのか、何が残るのか、中間支援組織・機能にどこまで任せるのかなど、県の役割、市町の役割、中間支援組織・機能の役割を明確にするとともに、県としても NPO 施策担当課や地域づくり担当課との連携をしっかりと検討していくことが必要です。

今後、平成 26 年の県民力拡大プロジェクトやその前年のイベントを行うこととしていますが、一過性で終わらないように、事業構築においてはこれらのことを十分留意したものにされたい。

最後に、情報発信においては、「あむあむ」のリニューアルやフェイスブックの開設など、工夫が見られ PR 効果の高いものに改善されてきていますが、広報媒体間の連携を図るなど、誰に何を訴えかけるのかターゲットを定め、一層戦略的なものにする必要があると考えます。

○ 平成 24 年度プロデュース業務の検証、評価について

県外在住プロデューサーなどのノウハウ、専門知識を本取組終了後も地域

に残していくため、一部の地域についてプロデュース業務を県内の中間支援組織に委託していることや、当初からプロデュース業務を委託している有限会社 Landa Associates においても、県内在住者の比率を高めていることは評価できます。

しかし、この取組があと2年であるということをお案すると、この取組が終了した後もグループの活動が自発的に続くためには、中間支援組織・機能を担うグループ・団体や地域のリーダー、企業等との連携をさらに進めていくことが必要です。

平成 25 年度の契約更新については、「美し国おこし・三重」の取組が終了した後の姿を見据えながら、

- ・ プロデューサーにおいても、パートナーグループと中間支援組織・機能を担うグループ・団体や地域のリーダー、企業等とのネットワーク化をさらに進め、個々のパートナーグループに応じた活動の自立・持続に向けてのきめ細やかな支援をしっかりと行っていくこと。
- ・ 総合プロデュース業務を担っている有限会社 Landa Associates においては、県内の中間支援組織等の機能の充実や連携の強化にも積極的に取り組むこと。

を条件に、可とするものと考えます。

② 平成 25 (2013) 年 6 月開催の評価委員会における意見と対応方針

意 見	対 応 方 針
<p>パートナーグループ同士の自主的な連携が進むなど、成果は表れてきていると思うが、どの程度パートナーグループの活動が活性化されてきているのか。また、平成 26 年度以降、そういったパートナーグループの活動を三重県の資産として残していくには、現時点のパートナーグループごとの活動レベルを冷静な目で分析し、レベルに合った支援を行っていくべきであり、県として、パートナーグループの「自立」という指標を持って、平成 27 年度以降の支援体制を考える時期ではないか。</p>	<p>パートナーグループごとの目標・到達度は、プロデューサーがパートナーグループとの話合いの中で毎年目標を立て、それに対しての進捗を、プロデューサー、地域事務所職員、パートナーグループ等で対話し、それぞれのグループに応じた自立に向けての支援を行っているところであります。</p> <p>また、「美し国おこし・三重」の取組終了後の県としての地域づくりの支援体制につきましては、地域づくり関係各課と調整しながら、市町との役割分担や県としての支援の必要性等を整理し、今後検討していきたいと考えています。</p>

意 見	対 応 方 針
<p>平成 26 年度の県民力拡大プロジェクト（縁博みえ2014・三重県民大縁会・第 32 回地域づくり団体全国研修交流会三重大会）は、一過性のイベントとしてはならない。</p>	<p>平成 26 年の県民力拡大プロジェクトでは、パートナーグループの活動の成果の披露を基本とし、地域の課題解決や新たな魅力の発信を通じて、「縁づくり」をキーワードとした集客交流イベントを全県的に展開していくこととしています。これを通じて、グループ間のネットワークの強化や中間支援機能の充実など地域の絆づくりを促進し、自立・持続可能で元気な地域づくりにつなげていきます。</p>
<p>中間支援組織について、「美し国おこし・三重」がしていたサポートをどこがどれだけ継続して担えるのか、体力測定も必要である。プロデューサーのノウハウの移管をあと1年かけてやっていきながら、移管先が無い場合、これから育てるのか新たに見出すのか、どういう形で地域につないでいくのか話し合っていくべきである。</p>	<p>中間支援組織については、「交流の場づくり」や「ネットワークづくり」などといった「美し国おこし・三重」が行っているサポート機能を担えるグループが、県内各地でパートナーグループの中から育ってきたり、現在、市民活動センターの業務などを受託しているグループなどが中間支援機能を担っていくことが望ましいと考えています。そういったことも狙いのひとつとして、平成 24 年度から地域の中間支援組織へのプロデューサー業務の委託を行っているところです。今後は、さらに、県民力拡大プロジェクトを通じて、パートナーグループの活動の磨き上げを図るとともに、県内中間支援組織との連携を図っていきます。</p>

意 見	対 応 方 針
<p>福祉、環境、文化など大まかな分野ごとにグルーピングをして、その中で飛び抜けてリーダー格になれるようなグループがその役割を果たせるように今から準備していくことが大切である。そうすれば、「縁博みえ2014」などのイベントを通じて、つながりが生まれている、地域でリーダーができていく、という成果を見せることができる。そのようなところにはスポットライトを当ててやればよいのではないか。</p>	<p>平成 24 年度に実施してきたテーマプロジェクトの中で、パートナーグループが複数のグループを束ねて事業を展開するなどの事例も出てきています。平成 25 年度の県民力拡大プロジェクトイベントでは、「プレ縁博イベント」企画提案モデル事業において、とりまとめ・運営などの中心的な役割を担う地域づくりリーダーの擁立を要件とし、プロデューサーが助言等を行いながら展開していくことで、リーダーの育成や活動の継続につなげていきます。</p>

5 両取組における今後の対応

今後とも、地域の多様な主体の協働による地域づくりが推進されるよう、条例に基づく仕組みとして位置づけた「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」と「美し国おこし・三重」の取組を効果的に機能させていきます。

5 「美し国おこし・三重」県民力拡大プロジェクトプレイベントの取組状況について

1 「プレ縁博みえ」の実施

「プレ縁博みえ」は、平成26年の「縁博みえ2014」のプレイベントとして、平成25年9月～12月に実施するものです。

パートナーグループ等が企画・実施する「プレ縁博イベント」や、県・市町・企業等が企画・実施する「プレ縁博パートナーシップイベント」など、300以上のイベントが県内各地で地域づくりの博覧会として展開されています。それらのイベントを掲載した「プレ縁博みえ」ガイドブックを8月下旬に2万部発行し、県内主要施設で配布を行うとともに、ホームページ・フェイスブック等でも情報発信しているところです。

[別添ガイドブック参照]

○「プレ縁博みえ」ガイドブック掲載事業数	
・プレ縁博イベント	245件
・プレ縁博パートナーシップイベント	79件
・実行委員会事業	14件
計	338件

2 「プレ三重県民大縁会」の実施

「プレ三重県民大縁会」は、平成26年の「三重県民大縁会」のプレイベントとして、平成25年12月に実施するものです。

パートナーグループの皆さんの活動成果の中間発表の機会や地域づくりの成功事例を学び・体験する場とするとともに、自発的な地域づくり活動への県民の皆さんの一層の参加・参画を促進していきます。

実施日時：平成25年12月7日（土）10:00～15:30

実施場所：メッセウイング・みえ（津市）

内 容：○展示・物販・交流スペース

- ・104ブース（予定）
- ・地域づくり応援ステージ（パートナーグループの活動発表）

○講演・発表スペース

- ・地域づくり講演（AM）

講演：“まちづくり”それは家族の絆から。

ー教えて！がばいばあちゃんー

島田洋七さん

- ・平成25年度宮川フォーラム（PM）

講演：偉大なる近所「宮川はオモシロイッ！」

アパッチけん（中本賢）さん

- ・交流会（パートナーグループ、出展者、参加者等による交流）

○2F講演スペース

- ・中山間地域活性化シンポジウム

講演：コミュニティづくり～人がつながるしくみをつくろう～

コミュニティデザイナー（株式会社 studio-L 代表）山崎亮さん

3 プレイベントの情報発信

平成26年の県民力拡大プロジェクトに向けて、県内外からの注目を喚起するとともに、県内外の皆さんの参加・参画につなげていくため、「^{えんぼく}プレ縁博みえ」、「^{えんぼく}プレ三重県民大縁会」の進捗に合わせて、さまざまな情報発信を行っていきます。

- (1) 「^{えんぼく}プレ縁博みえ」ガイドブックの発行
8月下旬に「^{えんぼく}プレ縁博みえ」ガイドブックを発行。
- (2) 「地域情報誌」を活用した情報発信
県内で地域ごとに各戸配布されている「地域情報誌」（つうぴーす、ふあみんぐ等）の9～12月号に「^{えんぼく}プレ縁博みえ」情報を掲載。
- (3) 懸賞プログラムによる情報発信
「^{えんぼく}プレ縁博イベント」等への参加者を対象とした懸賞プログラムを実施することで、「^{えんぼく}プレ縁博みえ」の県内各地のイベントへの集客を促進。
- (4) 路線バス・鉄道車両を活用した情報発信
8月から三重交通(株)においてラッピングバスを4地域（桑名、四日市、津、伊勢）で運行。また、10月から近畿日本鉄道(株)において、新しいデザインのラッピング電車（1車両）を運行しており、その電車を活用したPRプロジェクトを10月中旬に実施予定。
- (5) PRキャラバンによる情報発信
県外1か所（名古屋駅周辺）、県内5か所（ショッピングセンター等）でのPRやプレスツアーを実施。
- (6) PR講演会による情報発信
平成26年3月に「^{えんぼく}縁博みえ2014」をPRするための講演会を開催予定。